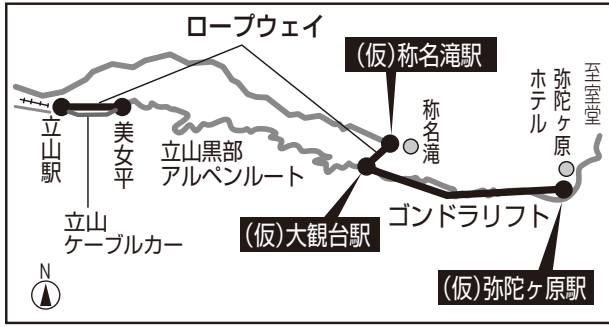


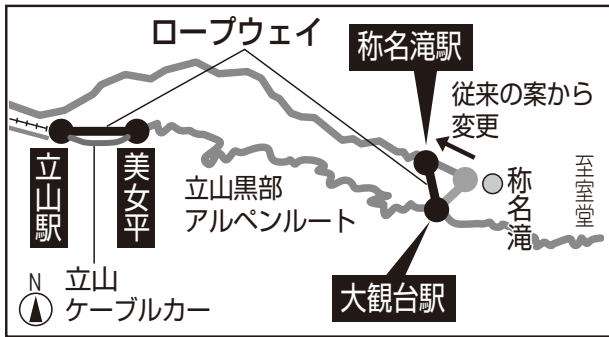
地元住民の意見や、自然を大切にこそ観光

称名滝から大観台の ロープウェイ案も断念を

予算特別
委員会
12/6



3/20 県が推進会議に提案したロープウェイの案
県の提案 (その① 称名滝駅から弥陀ヶ原駅ルート
その② 立山駅から美女平駅ルート)



12/2 県が第4回推進会議に提案したロープウェイ案
(大観台から弥陀ヶ原の Gondola 案は消えている?)

9月議会でひづめ県議が、環境省の見解を詳しく紹介して「撤回すべ

消えた弥陀ヶ原までの
ゴンドラリフト案

石井知事は「調査がまとまった段階で説明したい」と答弁。ひづめ県議は「構想が固まってるからではなく、地元と二階に構想をつくる姿勢が大事」と指摘しました。

地元・立山町からの
説明要望にすぐ応えるべき

9月県議会に続いて取り上げた「立山黒部」世界ブランド化事業の28項目のうち、地元や山岳関係者などから反対の声がある問題について問いました。

12月6日の予算特別委員会でのひづめ県議は、①「立山黒部」世界ブランド化 ②外国人労働者の就労環境 ③農業漁業と学校給食 ④水橋高校跡地活用と「あいの風」新駅——について取り上げました。



12/2 第4回立山黒部ブランド化推進会議
(県民会館)

称名滝から大観台の
ロープウェイ案も
環境省「自然への改変
小さくない」

第4回推進会議では、ロープウェイの2案が示されました。そのうち称名滝駅からのルートについては、推進会議の場でも「登山客の眺望

「推進会議」の検討項目のなかの超高級な宿泊施設誘致。外国の富裕層を想定した1泊5〜10万円クラスのホテルですが、地元観光業者から強い反対の声があがっています。KNBの番組でも「反対60%、賛成40%」との県民世論調査の結果が示されました。

水橋高校の跡地活用 地元の意見を聞き、県が責任を

県立高校の再編計画で、北部高校と合併することになった水橋高校。2022年春に廃校となります。県は「跡地の活用策は地元自治体が検討を」との方針ですが、富山市は「県の責任で決めるべき」との態度です。地元の意見を紹介し

ながら、ひづめ県議は「県が再編を決めたのだから、県が地元と協力要請すべき」と述べました。



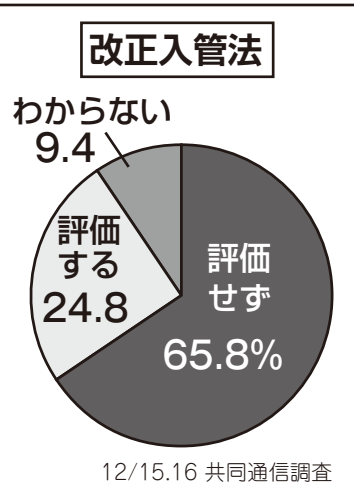
水橋地域での県政懇談会 (11/24 平成公民館)

あいの風とやま鉄道 富山・東富山間の新駅 駅西口周辺の整備を求める

来年度着工されるあいの風とやま鉄道の新駅。駅西側の下富居地内にも改札口が整備されますが、周辺整備計画が未だ示されていません。ひづめ県議は質問で、

駅前広場や駐輪場の整備、アクセス道路の歩道空間確保、周辺浸水対策を要望。知事も「富山市と連携して進めたい」と答えました。

外国人労働者受け入れの拡大 技能実習生の雇用実態や 管理団体の実態把握を



政府が計画する新たな在留資格には、現在の技能実習生の受け入れが想定されています。しかし、最低賃金違反や契約違反、重労働などの実態が国会で問題に。

県労連にもベトナム実習生から相談が

安倍内閣が12月8日に強行採決した改正出入国管理法。来年4月施行なのに、実施内容がまったく示されていません。

県警本部長の答弁で、県内外外国人労働者の失踪数が初めて明らかに。マスコミでも大きく取り上げられました。こうした問題を解決せずに、外国人労働者を雇用の調整弁に使うことは許されません。

外国人労働者を
受け入れる管理団体
の実態把握も

県内の外国人労働者は9863人で、うち技能実習生は461人(昨年10月現在)、日本語研修や生活支援を行う管理団体は42団体にのぼります。県が実態を把握し、支援計画を作ることが求められています。

「3年間で失踪402人」
の答弁に驚きの声

などの相談が。ひづめ県議は、県内の実態の調査と対策を求めました。